

# 開業1ヶ月では「影響なし」9割 今後も「影響はない」6割

当センターでは、県内中小企業に対し「東北新幹線八戸開業による中小企業への影響」について調査を実施した。

その結果、八戸開業1ヶ月では「影響はない」とする企業が87.1%となった。また、今後の影響についても62.6%の企業が「影響がない」としているが、当初の予想どおり二戸、久慈、盛岡の3地域とその他の地域との反応に差が出る結果となった。

対象企業:(12月31日現在)66業種 1,620企業 有効回答企業数:700企業 有効回答率:43.2%

## 開業1ヶ月の影響

### 9割弱の企業が影響なし

まず、開業1ヶ月間に企業に現れた影響については、87.7%が「影響はない」としており、「影響がある」とするのは10.1%となっている。

業種別では、サービス業、運輸業、卸売業で「影響がある」がやや高くなっている。

地域別にみると、二戸、久慈、盛岡の3地域で「影響がある」とする割合が他の地域より高くなっており、それ以外の地域では「影響はない」が概ね90%~96%と極めて高い割合となっている。

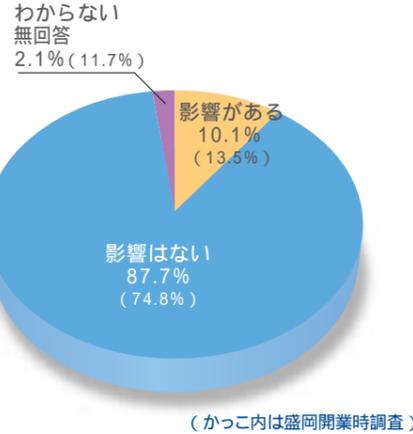
ちなみに、昭和57年盛岡開業時に実施した同様の調査結果と比較すると、今回の「影響はない」の割合は57年調査を12.9ポイント上回っているが、これが多いとみるか少ないとみるかは、今回は一部区間の開業で距離も短いということを考慮する必要がある。

### 業種別

	全業種		鉱業		建設業		製造業		卸売業		小売業		運輸業		サービス業	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
影響あり	71	10.1	0	0.0	4	4.2	22	9.9	7	10.3	17	9.6	8	17.8	13	18.1
影響なし	614	87.7	19	100.0	90	94.7	197	88.3	56	82.4	158	88.8	37	82.2	57	79.2
わからない	10	1.4	0	0.0	0	0.0	3	1.3	3	4.4	2	1.1	0	0.0	2	2.8
無回答	5	0.7	0	0.0	1	1.1	1	0.4	2	2.9	1	0.6	0	0.0	0	0.0

### 地域別

	全地域		盛岡		岩手中部		胆江		両磐		気仙		釜石・遠野		宮古		久慈		二戸	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
影響あり	71	10.1	27	13.8	4	4.0	3	3.8	7	10.4	4	7.3	3	4.5	1	2.3	10	20.0	12	28.6
影響なし	614	87.7	161	82.1	97	96.0	75	96.2	60	89.6	51	92.7	64	95.5	42	95.5	38	76.0	26	61.9
わからない	10	1.4	4	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.3	2	4.0	3	7.1
無回答	5	0.7	4	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.4



## 八戸開業への対応策

### 大半が対応策とらさず

次に、対応策についてみると、「たてるつもりがない」は84.6%で、「業種的に新幹線延伸とは関係ない」や「地域的に八戸開業は関係ない」という企業が多いのではないと思われる。これに対し、「既にたててある」「一部たててある」は7.4%で、これに「これからたてる」を加えても14.0%にすぎず、全体としては対応策への取り組みは少ない。

ちなみに、57年調査では、「たてるつもりはない」は52.4%であり、今回調査ではこれを32.2ポイントも上回っている。

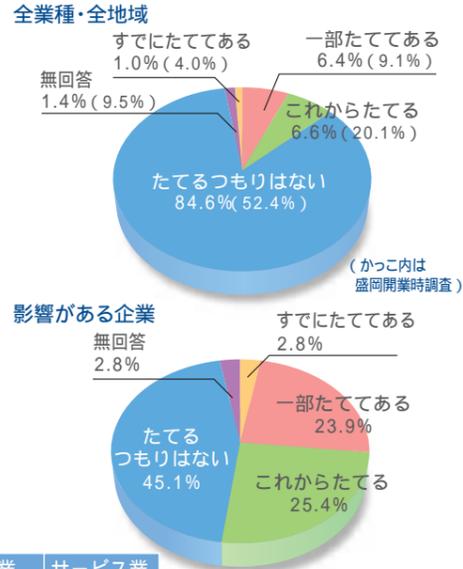
しかし、これを前記の「影響がある」

### 業種別

	全業種		鉱業		建設業		製造業		卸売業		小売業		運輸業		サービス業	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
すでにたててある	7	1.0	0	0.0	0	0.0	4	1.8	1	1.5	0	0.0	1	2.2	1	1.4
一部たててある	45	6.4	1	5.3	2	2.1	13	5.8	3	4.4	8	4.5	6	13.3	12	16.7
これからたてる	46	6.6	0	0.0	5	5.3	11	4.9	6	8.8	15	8.4	0	0.0	9	12.5
たてるつもりはない	592	84.6	17	89.5	86	90.5	192	86.1	58	85.3	152	85.4	38	84.4	49	68.1
無回答	10	1.4	1	5.3	2	2.1	3	1.3	0	0.0	3	1.7	0	0.0	1	1.4

### 地域別

	全地域		盛岡		岩手中部		胆江		両磐		気仙		釜石・遠野		宮古		久慈		二戸	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
すでにたててある	7	1.0	2	1.0	1	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	9.5
一部たててある	45	6.4	18	9.2	3	3.0	3	3.8	2	3.0	0	0.0	5	7.5	1	2.3	6	12.0	7	16.7
これからたてる	46	6.6	19	9.7	3	3.0	5	6.4	3	4.5	2	3.6	1	1.5	2	4.5	8	16.0	3	7.1
たてるつもりはない	592	84.6	156	79.6	92	91.1	69	88.5	61	91.0	53	96.4	60	89.6	40	90.9	35	70.0	26	61.9
無回答	10	1.4	1	0.5	2	2.0	1	1.3	1	1.5	0	0.0	1	1.5	1	2.3	1	2.0	2	4.8



## 影響の内容

### 影響の内容はプラス、マイナス相半ば

次に、「影響がある」とした企業についてその影響の内容をみると、「売上減少」が28.2%で最も多く、「顧客減少」と「人的交流の活発化」がともに18.3%で続いている。

総じて言えば、全体の44.1%が「人的交流の活発化」「事業機会拡大」「迅速な顧客対応可能」等プラス影響となっているが、反面、「売上減少」「顧客減少」「競争激化」等マイナス影響への回答も49.1%となっており、両者に極端な開きはなく、プラス・マイナス相半ばする結果となっている。



は各影響項目の回答数の合計(118)でプラス項目、マイナス項目の回答数をそれぞれ除した割合である。

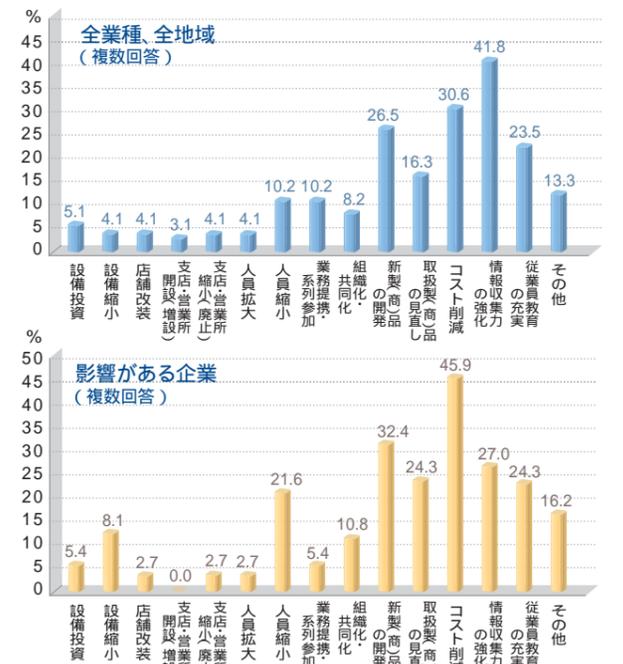
	実数	%
情報収集が容易(迅速)になった	5	7.0
人的交流が活発になった	13	18.3
営業網が拡大した	3	4.2
迅速な顧客対応が可能になった	8	11.3
売上が増加した	2	2.8
売上が減少した	20	28.2
顧客が増加した	3	4.2
顧客が減少した	13	18.3
事業機会が拡大した	12	16.9
事業機会が減少した	5	7.0
引合いが増加した	6	8.5
引合いが減少した	6	8.5
購買力が流出した	4	5.6
県外(県内)企業との競争激化		
①取引量の減少	2	2.8
②価格競争激化	8	11.3
③その他	0	0.0
その他	8	11.3
回答数計	118	-

## 対応策の内容

### トップは「情報収集力の強化」

対応策の内容についてみると、「情報収集力の強化」が41.8%と最も多く、次いで「コスト削減」30.6%、「新製(商)品の開発」26.5%の順となっている。これを、前述の「影響がある」とした企業についてみると、「コスト削減」が45.9%と最も多く、以下「新製(商)品の開発」32.4%、「情報収集力の強化」27.0%と続いており、コスト削減がトップにきている。

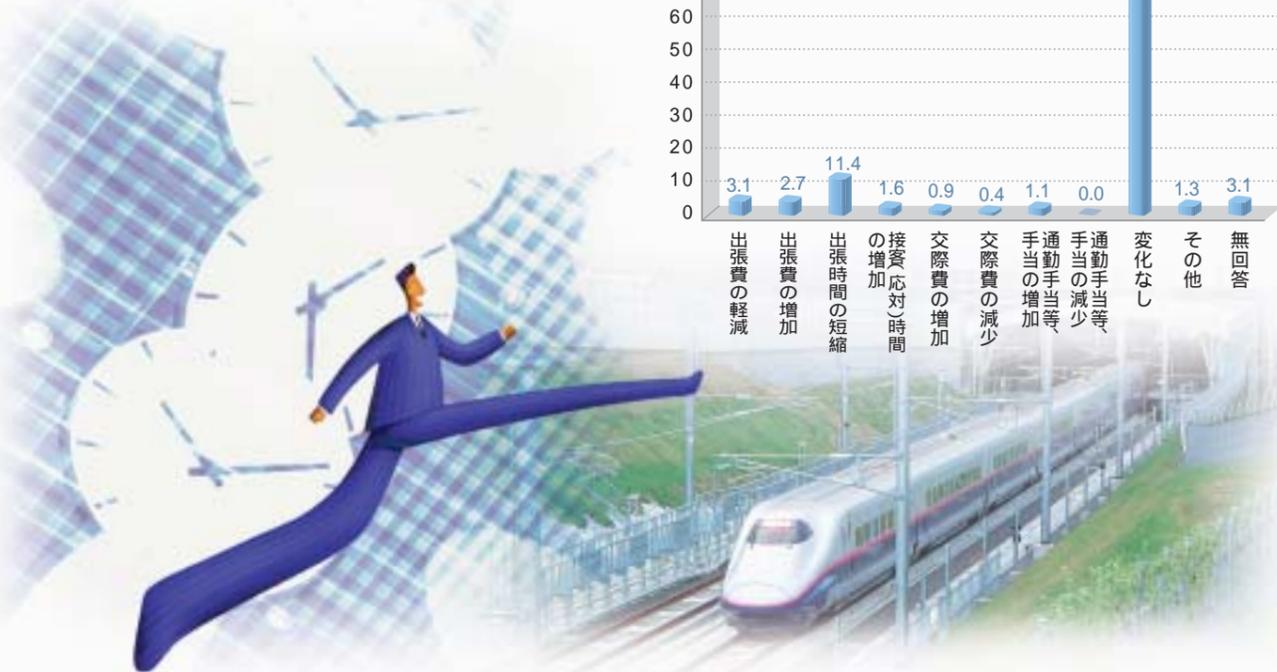
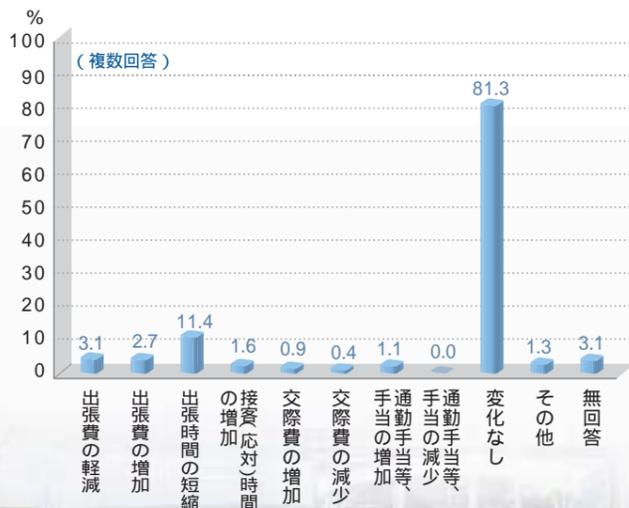
ちなみに、57年調査では、「従業員教育の充実」「情報収集力の強化」「取扱い(商)品の多様化」等が上位を占め、9番目で7.9%に過ぎなかった「コスト削減」が今回は大幅に増加しており、現在の経営環境を反映したものとなった。



## 経費や業務上のメリット・デメリット

### メリットは時間短縮

経費や業務上の「メリット」「デメリット」をみると、「変化なし」が81.3%と圧倒的に多く、それ以外では「出張時間の短縮」が11.4%でやや目立つ程度である。

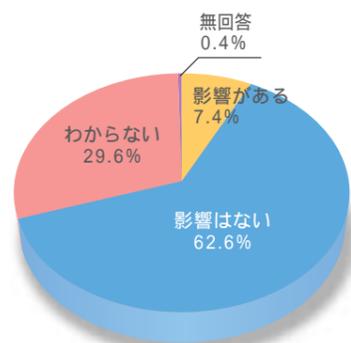


## 今後の影響

### 「影響はない」が6割強

企業への今後の影響については、「影響はない」が62.6%に対し、「影響がある」は7.4%で、開業1ヶ月間の「影響がある」10.1%よりも下回っている。また、開業1ヶ月時点では1.4%に過ぎなかった「わからない」が29.6%となっており、影響を測りかねている状況とみられる。

業種別では、サービス業と運輸業で「影響がある」が他業種と比較してやや高くなっており、同様に地域別では、二戸、久慈、盛岡の3地域でやや高くなっている。



### 業種別

	全業種		鉱業		建設業		製造業		卸売業		小売業		運輸業		サービス業	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
影響がある	52	7.4	0	0.0	4	4.2	13	5.8	4	5.9	15	8.4	6	13.3	10	13.9
影響はない	438	62.6	16	84.2	60	63.2	139	62.3	40	58.8	115	64.6	25	55.6	43	59.7
わからない	207	29.6	3	15.8	31	32.6	71	31.8	23	33.8	48	27.0	14	31.1	17	23.6
無回答	3	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.5	0	0.0	0	0.0	2	2.8

### 地域別

	全地域		盛岡		岩手中部		胆江		両磐		気仙		釜石・遠野		宮古		久慈		二戸	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
影響がある	52	7.4	22	11.2	3	3.0	2	2.6	3	4.5	0	0.0	2	3.0	2	4.5	9	18.0	9	21.4
影響はない	438	62.6	119	60.7	65	64.4	58	74.4	41	61.2	39	70.9	46	68.7	34	77.3	21	42.0	15	35.7
わからない	207	29.6	55	28.1	33	32.7	17	21.8	21	31.3	16	29.1	19	28.4	8	18.2	20	40.0	18	42.9
無回答	3	0.4	0	0.0	0	0.0	1	1.3	2	3.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0



## 今後の影響の内容

### マイナス影響懸念が上位

今後の影響ありとした企業についてその内容をみると、「売上が減少する」が40.4%と最も多く、次いで「顧客が減少する」「価格競争の激化」がそれぞれ25.0%、購買力が流出する」が23.1%の順となっており、マイナス面の影響を予測する回答が上位を占める結果となった。

しかし、「人的交流の活発化」「事業機会の拡大」がともに21.2%、「引合い増加」15.4%等、プラス面の影響を予測する回答も多い。



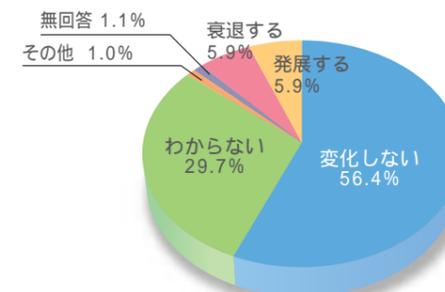
	実数	%
情報収集が容易(迅速)になる	5	9.6
人的交流が活発になる	11	21.2
営業網が拡大する	7	13.5
営業網が縮小する	4	7.7
迅速な顧客対応が可能となる	3	5.8
人材確保が容易になる	1	1.9
売上が増加する	5	9.6
売上が減少する	21	40.4
顧客が増加する	4	7.7
顧客が減少する	13	25.0
事業機会が拡大する	11	21.2
事業機会が減少する	4	7.7
引合いが増加する	8	15.4
引合いが減少する	7	13.5
購買力が流出する	12	23.1
県外(県内)企業との競争激化		
①取引量の減少	5	9.6
②価格競争激化	13	25.0
③その他	1	1.9
その他	2	3.8

## 地域への影響

### 「変化しない」が過半数

回答企業が所在する地域経済の今後の見通しについては、全体では、「変化しない」が56.4%となっており、過半数を占めているが、地域別でみると、久慈、二戸、盛岡の3地域で「発展する」とした企業割合が他の地域に比べ高い一方、その他の地域では「変化しない」とする企業割合が多く、盛岡以北とその他地域との差が顕著に現れている。

しかし、「発展する」とした一方において、二戸地域、盛岡地域では「衰退する」の比率も他の地域に比べ高くなっている。



### 地域別

	全地域		盛岡		岩手中部		胆江		両磐		気仙		釜石・遠野		宮古		久慈		二戸	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
発展する	41	5.9	20	10.2	1	1.0	1	1.3	0	0.0	1	1.8	2	3.0	0	0.0	11	22.0	5	11.9
衰退する	41	5.9	24	12.2	2	2.0	0	0.0	1	1.5	1	1.8	3	4.5	0	0.0	2	4.0	8	19.0
変化しない	395	56.4	91	46.4	64	63.4	51	65.4	47	70.1	37	67.3	47	70.1	30	68.2	18	36.0	10	23.8
わからない	208	29.7	58	29.6	34	33.7	24	30.8	17	25.4	15	27.3	14	20.9	12	27.3	16	32.0	18	42.9
その他	7	1.0	2	1.0	0	0.0	0	0.0	1	1.5	1	1.8	0	0.0	1	2.3	2	4.0	0	0.0
無回答	8	1.1	1	0.5	0	0.0	2	2.6	1	1.5	0	0.0	1	1.5	1	2.3	1	2.0	1	2.4

## 以上のほか回答いただいた各企業より、新幹線八戸開業に伴う影響についてのご意見が数多く寄せられました。以下に代表的なものをご紹介します。

色々な面で東西格差が縮小すると思うので、個店や各企業の努力が問われると思います。

沿線域内と沿岸部との格差がこれまで以上に進むと思われるため、この格差解消の手段、方法を真剣に考えていかなければならない。

特に大きな影響はないと思うが、交通の便が良くなった分、今後購買やレジャー等でより大きな都市へ流れる人が多くなり、地域にとってはいずれデメリットの方が強調されてくるのではないかと思います。

好影響を受けるか否かはいかに自分達が変わるにかかっている。地域全体を含めて、又個々人の意識も変えなければ発展に結びつくものではないことを、自覚しなければならない。

購買客の一部が仙台・東京へ移行するため、地場の企業においても魅力ある店舗・商品構成を創り出さなければならない。独自性の無い企業は淘汰されると思う。

当面、影響はないが、将来的に人的交流により事業機会が増えるように思われる。